

COLUMN 4

いのち支える（自殺対策）プロジェクト

平成10年から続く「年間自殺者3万人時代」に終止符を打つために、平成22年度の自殺対策強化月間にあわせて、「いのち支えるプロジェクト（以下、「プロジェクト」という）」を立ち上げました。これは、自殺対策に関連する様々なイベントや相談会等に、一体感・統一感を持たせるためのプラットフォーム（仕掛け）です。乳がん対策における「ピンクリボン運動」のように、自殺対策においてもキャンペーン用のロゴ等を作成し、全国の自治体や民間団体、マスコミや企業等にも参画を呼び掛けて、社会全体で「いのちへの支援（自殺対策）」を展開しようと企画したものです。

東日本大震災の影響があり、プロジェクトがすべて思い通りに展開したわけではありません。しかし、「プロジェクト」に向けた準備と3月半ばまでの様々な取組を通して、自殺対策の新たな地平が拓けてきたことは確かです。特に、これまで「自殺対策関係者」ではなかった分野の人たちや組織との連携が進められたことは大きな収穫でした。

具体的には、若手のクリエイターやアーティストとの連携です。「プロジェクト」ロゴのデザインをボランティアで買って出してくれたのは、広告業界の第一線で活躍する若手クリエイター。

それにキャンペーンソングを「ドネーションミュージック（売上げが自殺問題に取り組む民間団体に寄付される仕組み）」として提供してくれたのも、若者3人で作るワカバというバンド

でした。ワカバが歌う『あかり』は、「もう消えてしまいたい」と思い悩む人の気持ちにそっと寄り添いながら勇気づけてくれるメッセージソングで、ネット上でもプロモーションビデオ（<http://www.youtube.com/watch?v=ObMAh1WmKYg>）が無料で公開されています。

〈いのち支えるロゴマーク〉



自殺対策強化月間初日の3月1日にサントリーホールで開催した「第一回いのち支えるチャリティーコンサート（主催：ライフリンク、協賛：日本財団）」にも、ワカバのほか、「いのち」をテーマにして活動しているアーティストの方々が参加してくれました。『千の風になって』の新井満さん、『自死遺族に捧げるバラード』のwatariさん、『BLUE』のNAZUKIさん。それに、『生きる』をビデオ出演で朗読してくれた詩人の谷川俊太郎さんです。コンサートを聴きにいられた方々にも、広く自殺対策への理解を深めてもらう機会になったと思います。

「プロジェクト」を通じて、企業との新たな連携も生まれました。ライフリンクがデジタルデータデザインと共同で運営している「いのちと暮らしの相談ナビ（旧ライフリンクDB＝生きる支援の検索サイト）」へのリンクを、携帯大手3社（NTTドコモ、au、ソフトバンク）の携帯サイトトップページに張ってもらうことになったのです。若年世代の自殺が深刻化している中、携帯電話は若い人たちに情報を届ける最も効果的なツールです。「悩みはあるけど、どこに相談していいかわからない」といった若者向けに行った新たな試みは、3月最初の2週間で490万PV（126万アクセス）に上りました。私たちに、若者たちが置かれている状況の深刻さと効果的な情報提供の必要性を突き付ける結果となりました。

最後になりますが、3月5日に開催した「いのち支える全国キャラバン出発式（主催：ライフリンク、後援：内閣府、東京都、協賛：日本財団）」を皮切りに、これから全国各地にキャラバンシンポジウムが展開される予定です。全国の自殺対策関係者の総力を結集させて「プロジェクト」の理念をさらに具現化し、自殺に追い込まれる人が一人でも減るように力を尽くしていきましょう。

自殺対策タスクフォース事務局長代理
（内閣府参与・特定非営利活動法人ライフリンク代表）
清水 康之